

ひだ スキマ

白書 2022

これから増えていく
身近な困りごと、
どうする!?



2045年には “現役世代”が 半分以下に!?

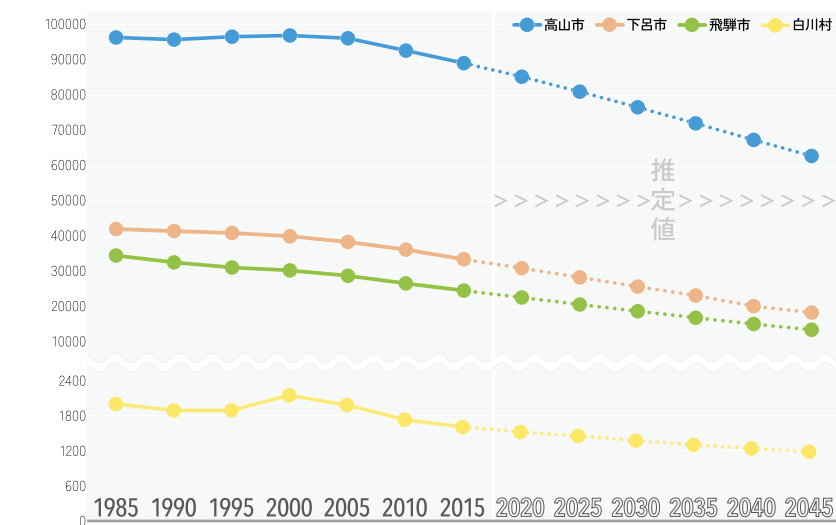
飛騨地域の人口は減少の一途を辿っており、行政も事業者も先行きに対して危機感を強めています。岐阜県環境生活部統計課が2022年7月に更新した各市村の「統計からみた現状」では、0～14歳の子どもが減り続ける一方、65歳以上の高齢者は横ばい又は増加傾向、さらに15～64歳人口いわゆる現役世代が大幅に減少することが示されています。高山市は、2015年から2045年で現役世代が半数以下になる

と予測されています。飛騨市、下呂市、白川村も例外ではありません。それはつまり、支える側の負担（医療・介護保険給付費・社会保障費、見守り体制の整備、地域コミュニティの維持等）の増加や、人手不足の深刻化、経済規模の縮小、雇用者報酬の低迷などの影響を示唆しています。すでに、市民生活の様々な場面で支障をきたす事例が生じています。

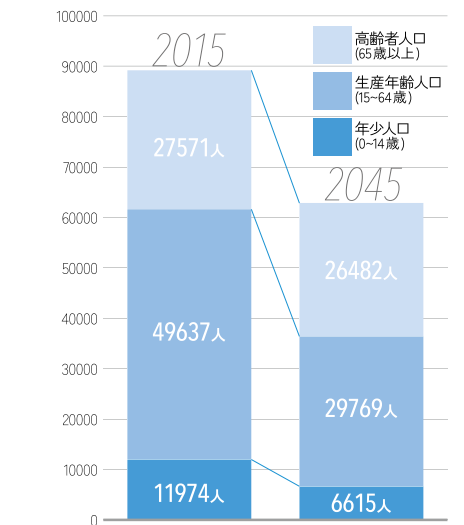
2018年に公表した「日本の地域別将来推計人口」に掲載されている2020年～2045年の推計よりも、2020年の国勢調査結果の人口が下回っていたことから推計結果よりもさらに速いスピードで人口構造の変化が起こっていると想定されます。

飛騨地域の豊かな文化・自然・暮らしを、次世代を担う子どもや孫たちに繋いでいくために、地域での役割を見直す時機にきています。

■将来の人口の見通し



■高山市の世代別比較



■2020年の推計人口と実人口

	高山市	飛騨市	下呂市	白川村
2018年3月推計	85,332人	22,739人	31,050人	1,522人
国勢調査結果	84,419人	22,538人	30,428人	1,511人
	-913	-201	-622	-11

出典

上段：総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2018年3月推計)

下段：総務省「国勢調査」(2020年10月1日現在)

ひだスキマ白書製作主体

認定NPO法人
まちづくりスポット

2022年、まちづくりスポットは10周年を迎えます。

10年前、異なる立場の人や組織の「協働」を広げるべく一歩一歩進めてきた私たちの活動は、今年その集大成となる年でもあります。あらためて誕生当初の「協働」をテーマとし、活動地域とする飛騨から世界にその輪が広がるように皆様とともに実施する事業に挑戦していきたいと思います。



編集・執筆チーム

田辺友也、本間あかり、野中小鈴

製作パートナー

古里圭史 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授 / 株式会社リトルパーク代表 / 公認会計士 / 税理士)

全国コミュニティ財団協会 <https://www.cf-japan.org/>

合同会社めぐる <https://www.meguru.social/>

飛驒で暮らすということ

地方暮らしは誰もが担い手にならなければいけない

日本の都心部も含めた未来の社会の姿

自分たちの暮らしを守っていくための未来の話

地方は“お互い様”と“助け合い”で今の町の姿がある。

少子高齢化、そして社会減により人口が減少し

コロナ禍の影響により、地域の主産業である観光産業が打撃を受ける中

様々な社会課題が表出している。

このような環境下においてプライベートセクター（民間）も体力を奪われ、

これまで地域課題の解決の大部分を担ってきたパブリックセクターのカバーする領域も

縮小傾向にある。

社会課題が表出する中で「スキマー 隙間ー」つまり、

“地域の中に生まれた誰も手を触れられていない社会課題”が

音もなく、しかし着々と広がっている。

では、その「スキマ」は誰が埋めるのか

それを埋めようとするのは地域の中から生まれる新たなチャレンジャーだ

社会課題を自分事として捉え、自分たちの問題として、そのスキマを埋めようとする人たちが

そういったチャレンジャーの活動にとっては当然一定の資金が必要である。

旧来のドライな投資ではなく気持ちののったお金の流れをつくることで

チャレンジャーと住民の繋がり糸を紡いでいきたい

そのためにもまず、

資金的に一定期間の活動を支えながら、いずれ自走していくことが出来るよう

事業面において伴走支援の機能も有する“コミュニティ財団”設立に向けて、

飛驒地域の社会課題や地域活動の調査結果をまとめたのが

この「ひだスキマ白書2022」

あなたと、あなたの大切な人たちが、

この先も飛驒地域に生まれたこと・住んでいること・関われることを

誇りに思えるように。

今この飛驒地域にある「スキマ」、

そしてこの先に生まれてくる「スキマ」に立ち向かうチャレンジャーたちに

一人でも多く仲間ができるように。

この白書が気づきを得るきっかけになることを願って。